

キャンパス間連絡バスの悪臭とその改善案について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2026 年 7 月 6 日)

コロナ禍中は問題なく乗れていましたが、コロナ明け以来、キャンパス間連絡バスの利用増に伴い特に夕方の便で窓を開けて乗っても悪臭で気分が悪くなり利用できなくなっていました。

京都大学は発達に特性を持った学生が多く、私のように嗅覚をはじめとした感覚過敏を持つ学生も多く在籍していることが予想されます。すなわちこの一部の学生が利用できなくなっていると考えられます。また、これほどの過密状況(朝から晩までの臭いが蓄積するほどの無換気)はコロナやインフルエンザなどの集団感染の危険性を大いに増しているとも言えます。なお、最寄りの窓をひとつ開けただけでは空気が循環せず、複数開けた状況でやっと換気されるため、私自身が窓を開けて乗車していますが換気できていないことが多くあります。

ここで、連絡バスの運転手の方には非常にお手数ですが、連絡バスの昼休み期間(便数が減る時間帯)にドアと複数の窓を開放したり、各便間停車中 10 分間にもなるべく換気を行ったり、また降車の際乗客に窓を開けるように声かけを行ったり、雨の日以外は走行中にもデフォルトで複数の窓を 10 センチほど開けておくなどしていただきたいと思っています。

【回答】(回答日:2026 年 8 月 6 日)

(回答部署: 施設部プロパティ運用課資産掛)

ご意見ありがとうございます。バスをご利用いただく中で、ご不快な思いをさせてしまいましたこと、大変心苦しく存じます。

投稿者様がご指摘の通り、本学には多種多様な特性やご事情を持つ方が在籍されております。臭いに感覚過敏の方もおられれば、外気中の花粉やPM2.5、排気ガス等へ感覚過敏の方もおられます。「複数の窓の開放」という一律の運用が、他の感覚を持つ方にとっても最善の解決策となるかどうか、慎重に検討を行う必要がございます。

・停留所停車中の窓開放対応について

構内停留所内停車時間につきましては、天候や温度、花粉等の外部環境に配慮しつつ、ドアや窓を一定時間開放しての換気も検討いたします。

・走行中の窓開放対応について

貸切バス事業においては、走行中の物品落下および身を乗り出すことによる人身事故等のリスクを考慮し、バス会社側主導で走行中の窓開放は致しません。あわせて、本学としましても、安全運行の観点から大学側が主体で走行中の窓開放をすることはいたしかねます。

何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。